

新改から香北・物部にかけて美しい山間の風景が広がっています

閲覧室を山並みに向けて開き  
 優美な屋根をそっと架けることで

さまざまな世代が 学び 交わり 地域へ広がって知を育む  
 悠揚な佇まいの図書館を目指します



県道からのイメージ

### 01. 風景をつくる

香美市立図書館の敷地は、北から東にかけて美しい山並みや田園風景が広がっています。新しい図書館は、周辺の環境にとけこみ柔らかな屋根と木の香りに包まれた天蓋によって地域のシンボルとして設えます。読書空間に緑を織り込むように計画することで、内外を関係づけるかたちとします。

#### 地域のシンボルになる天蓋

・山並みの風景に呼応する伸びやかな屋根は、地域産の木材で構成し、軽やかで印象的な姿をもつ地域の新しいシンボルとして設えます。

#### 気軽に立ち寄りやすい開放性

・透明感のあるガラススクリーンによって、オープンで開放的な雰囲気をつくります。  
 ・母が子に読み聞かせる様子や、グループ学習室で中高生が語らう様子など、緑を介して通りから内部のアクティビティが感じられるように設えます。

#### 周辺環境との調和

・北側の情緒ある集落や周辺の町並みと調和するよう、屋根の起伏や軒先形状、壁面に変化をもたせ、小さなスケール感をもつ建物とします。  
 ・軒下は屋根を構成する高知県産の木材が表しとなり、屋根を支持する壁柱は山田の瓦積み仕上とするなど、地域性のある素材を効果的に採用した外装計画とします。



閲覧スペースのイメージ

## 02. 山並みへの眺望と利用しやすいアクセスを実現する建物配置

### 北東に開く

・香美市の雄大な山間の風景を読書空間に取り込むため、北から東にかけて閲覧室を配します。  
 ・道ゆく人々からも内部の様子が楽しめるよう、建物を県道に向けて配置し、新しい図書館の顔として設えます。

